

日本市民スポーツ連盟イヤラウンド認定コース

③.手賀沼湖畔とハケの道 (No.2) 16 km

ぴあ我孫子WST (協力: 東葛ウォーキングクラブ)

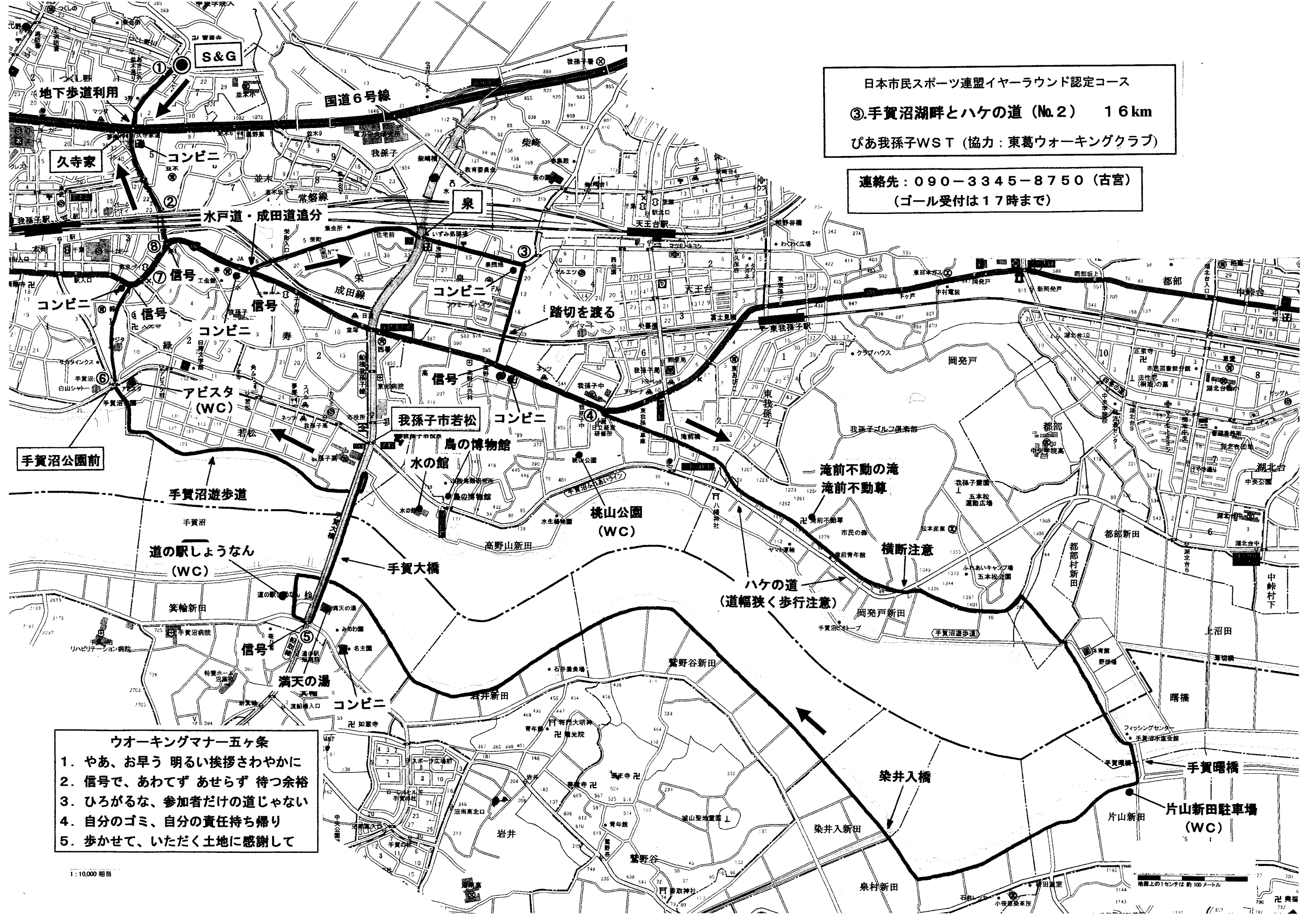
連絡先: 090-3345-8750 (古宮)

(ゴール受付は17時まで)

- ウォーキングマナー五ヶ条
1. やあ、お早う 明るい挨拶さわやかに
 2. 信号で、あわてず あせらず 待つ余裕
 3. ひろがるな、参加者だけの道じゃない
 4. 自分のゴミ、自分の責任持ち帰り
 5. 歩かせて、いただく土地に感謝して

1:10,000 相当

地図上の1センチは約100メートル



ぴあ我孫子WS T

No.3 「手賀沼湖畔とハケの道(2)」 16km

- ①. WSTの正面左にある交差点を利用して、国道向かいの右側を歩きます
緩やかな登り坂の先、国道6号線の久寺家交差点は「地下歩道」を利用して横断します
- ②. 常磐線下越しヶ所は歩道がなく、歩行者用に緑のラインが引いてありますのでその上を歩いてください 複数人で歩く場合は必ず一列でお願いします
先の交差点で横断し左側歩行となります
- ③. 泉交差点の先にあるコンビニで右折、成田線の踏切を越えます
先の交差点で道路を横断し、右側(ガスト・コンビニ側)を歩きます
- ④. 我孫子中学校の先で右側の道に入ります
(株)日立アカデミー我孫子キャンパス前で、川口金物店裏を通ります
この先の道は「ハケの道」と呼ばれ、道幅狭く時折通る車に注意してください
- ⑤. 手賀大橋は右側の歩道を歩いてください
渡った先で右の側道に入り、手賀大橋の下をくぐり、手賀沼遊歩道を歩きます
- ⑥. 手賀沼公園前交差点で、右側の新道ダイソー側(緩やかな登り坂)を歩きます
- ⑦. 我孫子宿本陣跡があります
千住宿から4番目の宿場町で、当時は本陣・脇本陣が置かれた大規模な宿場町で東西1km弱の範囲に広がっていたとのこと 現在は説明が付された杭がある是非お立寄りください
- ⑧. ②と同様に、歩行者用に引かれた緑のラインの上を歩いてください
国道6号線の久寺家交差点は「地下歩道」を利用して横断します
地下歩道の先、緩やかな下り坂を下り、最初の交差点先がWSTです

お疲れさまでした

またのお出掛けを心よりお待ちしております

ぴあ我孫子WS Tは、年末・年始を除き開設しますが、CWAの関連行事や東葛行事の開催日などは、お休みをさせていただきます ●
当初の予定が変わる場合もありますので、事前に開設確認のご連絡がいただけると助かります

水戸道・成田道追分

江戸時代より前、現在「成田街道」と呼ばれている道を「水戸道」と呼んでいました
当時の「水戸道」は、東我孫子～湖北～布佐～利根川を渡って布川へと進み、水戸へと向かう道でした

江戸時代になると幕府は、交通が各地方への幕府支配力を高める重要なものと考え江戸を中心とした陸上・水上交通網の整備に力を入れました

江戸と水戸を結ぶ水戸道は、水戸徳川家や常陸周辺の大名が江戸との往来に利用し東海道などの「五街道」に次いで重要な「脇往還」として発達しました

その後、天和二(1682)年ごろになると、陸路・水路の整備が進み、大きく迂回した水戸への道は変更となり、この追分から北上する新たな「水戸道」が生まれました

そして、かつて「水戸道」と呼ばれていた道は、「成田道」と呼ばれるようになり結果として成田道の起点となりました 新しくできた「水戸道」は北へと向かい柴崎神社付近を通り、青山の渡しを使って対岸へと渡り、取手宿へと進みます

追分は、我孫子宿の出入口として、地元の人々によって保存され、令和三年(2021)年には地元の声が集まり再整備されましたが、この整備によって現存する中で最古の元禄四(1691)年の道標を再調査したところ、「水戸海道」「布川海道」と書いてあり道の変更から約九年後の時点では「成田道」は「布川海道」と呼ばれていたことが判りました

滝前不動の滝・滝前不動尊

毎年12月中旬から1月上旬に「竹灯籠ライトアップ」が開催されます
不動堂は1800年代に建てられた様で、傍らの滝は日照りでも枯れなかったと言われている

道の駅しょうなん

平成13(2001)年4月20日にオープン
名称は、設置当時に所属していた「東葛飾郡沼南町(2005年柏市に併合)」に由来
県道8号線を挟んだ向かい側に「スーパー銭湯・満天の湯」がある

鳥の博物館・山科鳥類研究所

日本で唯一の鳥類専門の博物館
居鳥エピオルニス(レプリカ)や手賀沼の水鳥ジオラマなど、貴重な資料を展示している 休館日は月曜日、70歳以上は無料 ぜひ、お立寄りください

山科鳥類研究所は通常非公開
世界的に有名な鳥類専門の研究機関 絶滅種や希少種を含む鳥類標本は6万点
文献4万点を所有している
アホウドリやヤンバルクイナなど、希少種の保護活動や生態研究をおこなっており
アジアの鳥類学の一翼を担っている

見学は毎月第四金曜日、要予約 TEL 04-7182-1101